

2 質問紙調査の結果

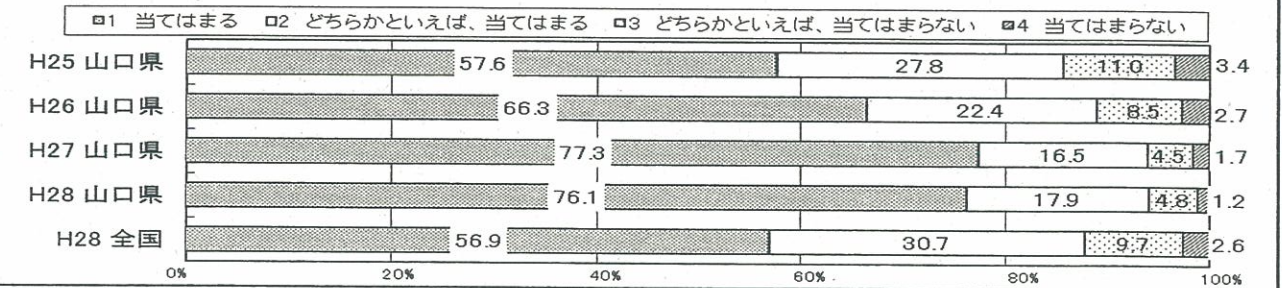
(1) 授業改善～児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問～

①授業の目標（めあて・ねらい）

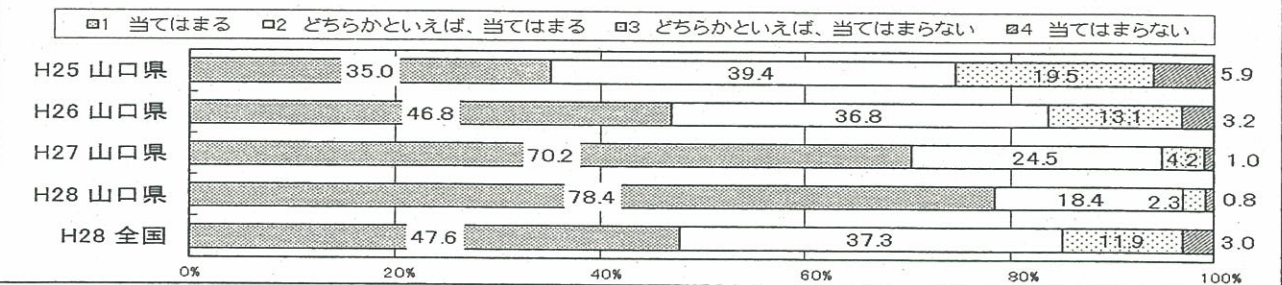
- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示すことについて、肯定的に回答した児童生徒の割合と計画的に取り入れた学校の割合は、ともに全国に比べて高く、全ての小・中学校で取り入れている。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差が、特に中学校において、小さくなっているが、依然として開きがある。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き、児童生徒に目標が明確に伝わるよう提示方法を工夫したり、目標の質を向上させたりするなど、計画的に取り組むことが必要である。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (53) 授業の中で目標(めあて、ねらい)が示されていたと思う

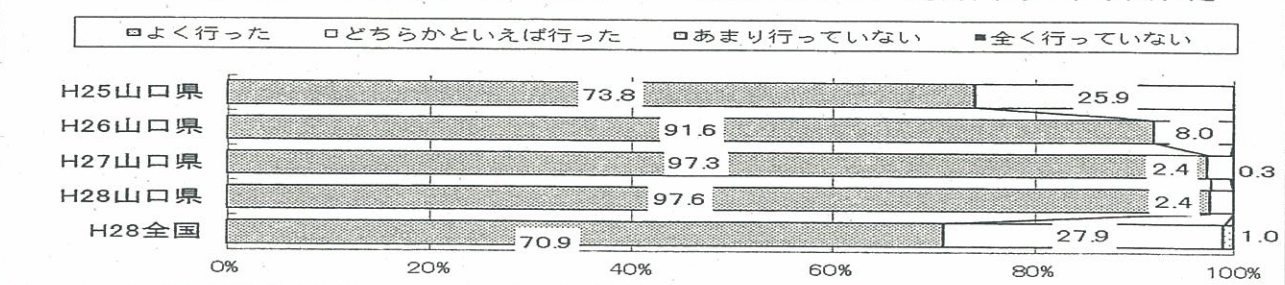


【中学校】 (53) 授業の中で目標(めあて、ねらい)が示されていたと思う

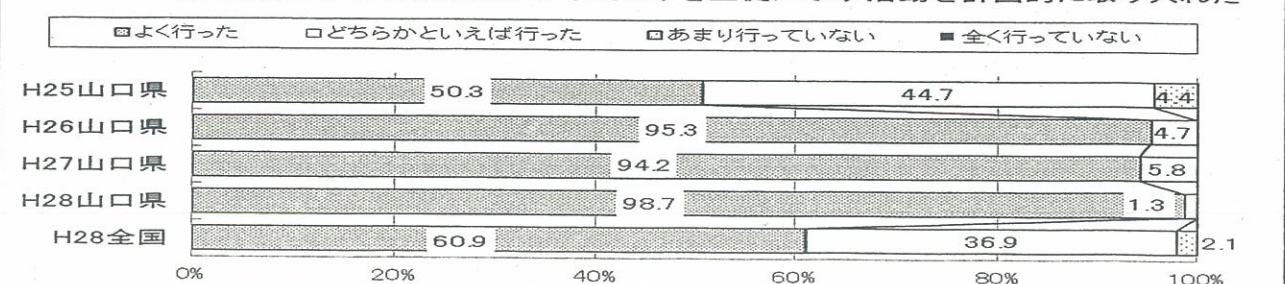


[学校質問紙]

【小学校】 36 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れた



【中学校】 36 授業の中で目標(めあて・ねらい)を生徒に示す活動を計画的に取り入れた



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

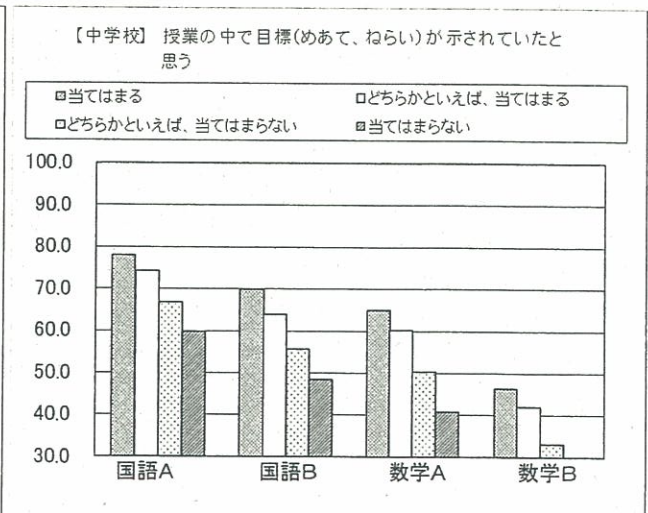
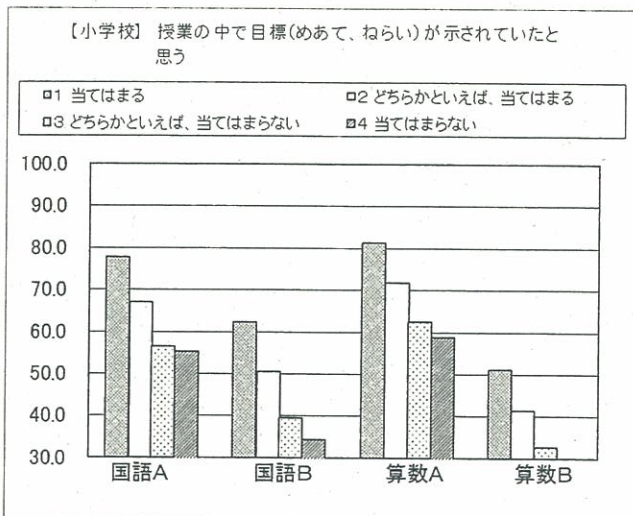
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	99.7%	85.4%	14.3%
26年度	99.6%	88.7%	10.9%
27年度	99.7%	93.8%	5.9%
28年度	100.0%	94.0%	6.0%

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	95.0%	74.4%	20.6%
26年度	98.7%	83.6%	15.1%
27年度	100.0%	94.7%	5.3%
28年度	100.0%	96.8%	3.2%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

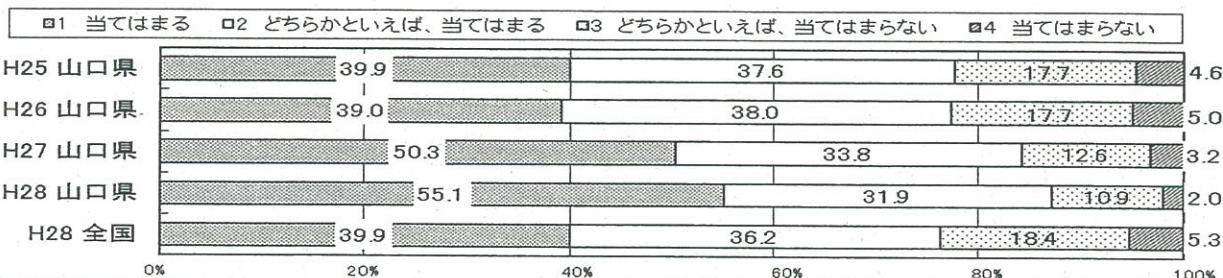


②授業の振り返り

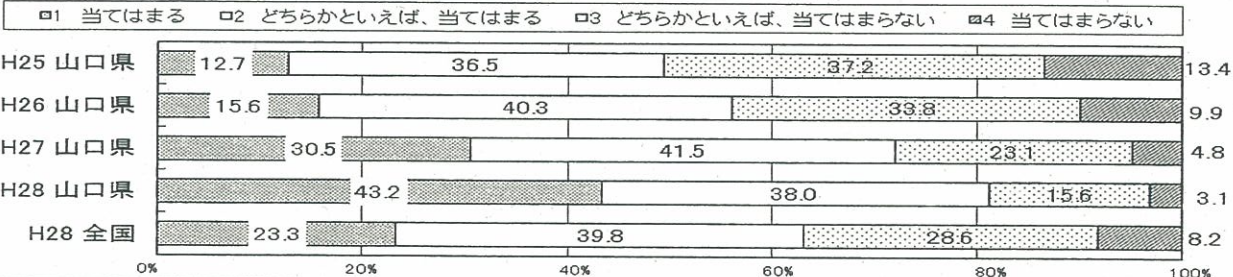
- 授業の最後に学習内容を振り返る活動を行ったことについて、肯定的に回答した児童生徒の割合と計画的に取り入れた学校の割合は、ともに全国に比べて高く、全ての中学校で行っている。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差は小さくなりつつあるが、依然として開きがあり、そのように受け取っていない児童が12.6%、生徒が18.8%いる。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、振り返りの効果は認められる。今後、その授業を通じて何が分かったか、何ができるようになったか等を整理するような、振り返りの質の向上を図る必要がある。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (54) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

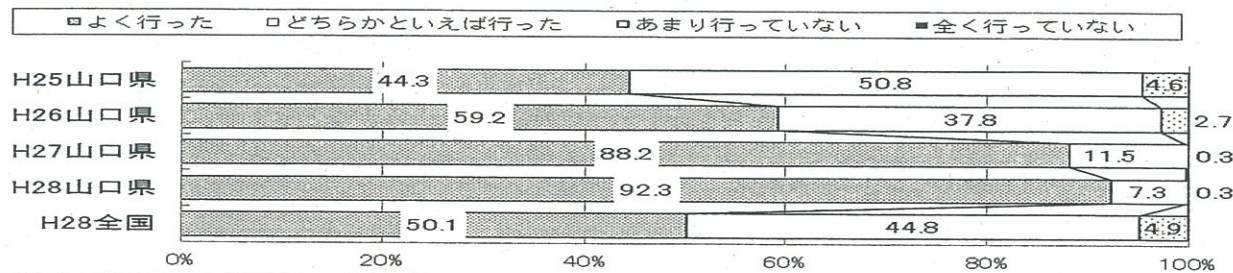


【中学校】 (54) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

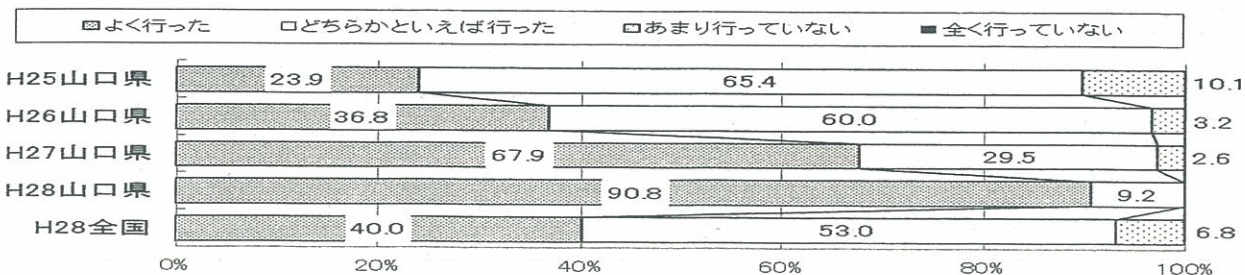


[学校質問紙]

【小学校】 37 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた



【中学校】 37 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

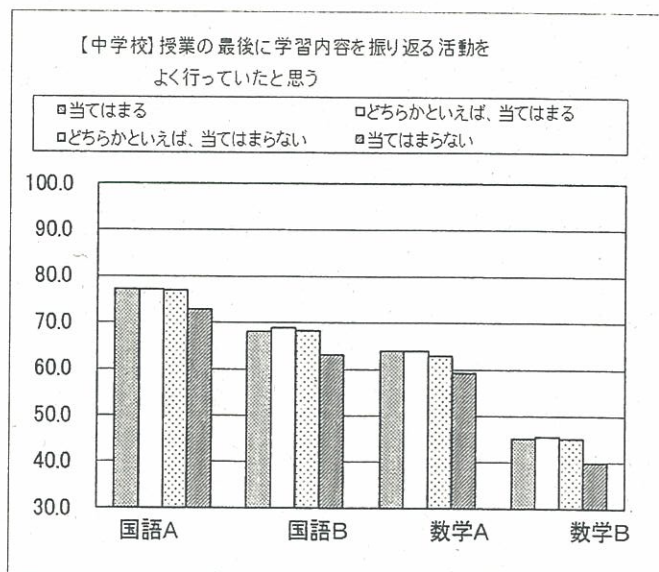
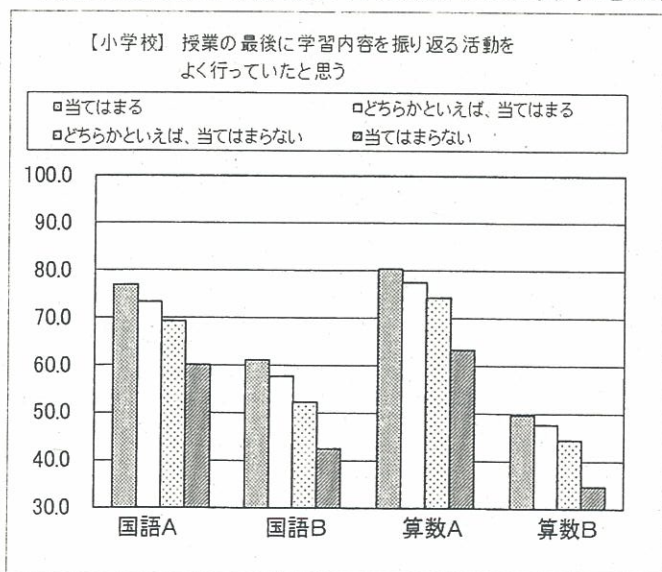
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえ ば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえ ば、当てはまる」と回答した児童の 割合	
25年度	97.4%	81.0%	16.4%
26年度	98.0%	88.9%	9.1%
27年度	99.7%	84.1%	15.6%
28年度	99.6%	87.0%	12.6%

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえ ば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえ ば、当てはまる」と回答した生 徒の割合	
25年度	93.1%	73.4%	19.7%
26年度	97.4%	84.5%	12.9%
27年度	97.4%	72.0%	25.4%
28年度	100.0%	81.2%	18.8%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



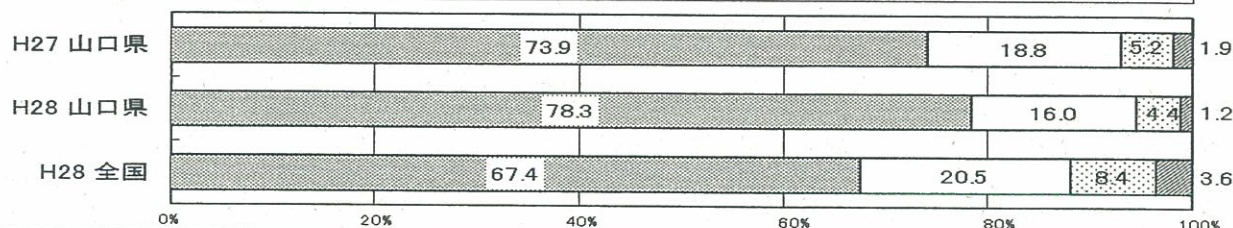
③ノートに目標（めあて・ねらい）とまとめを書く習慣

- 授業で使うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いたと思う児童生徒の割合と、そのように指導した学校の割合は、全国に比べて高く、全ての小学校で行っている。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差は小さくなりつつあるが、開きがある。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き指導を徹底するとともに、目標やまとめの記述が意識できるような働きかけや、効果的・機能的なノート指導を行っていくことが必要である。

[児童生徒質問紙]

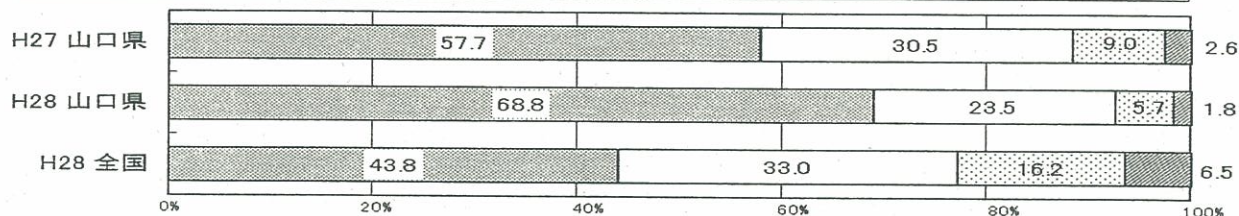
【小学校】 (55) 授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 (55) 授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思う

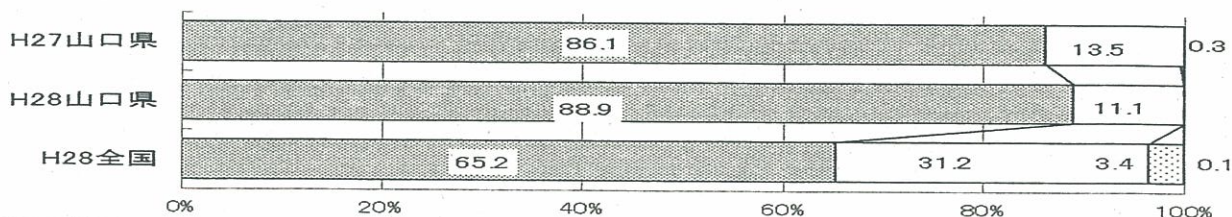
□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



[学校質問紙]

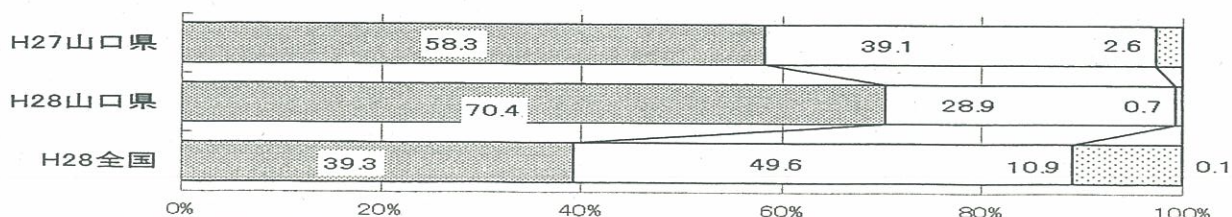
【小学校】 41 授業で扱うノートに学習の目標とまとめを書くように指導している

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない



【中学校】 41 授業で扱うノートに学習の目標とまとめを書くように指導している

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
27年度	99.6%	92.7%	6.9%
28年度	100.0%	94.3%	5.7%

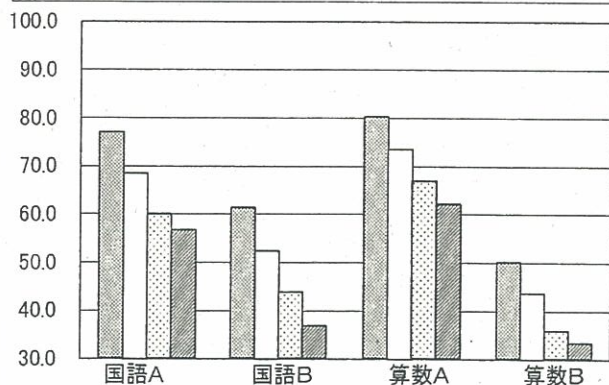
【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
27年度	97.4%	88.2%	9.2%
28年度	99.3%	92.3%	7.0%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

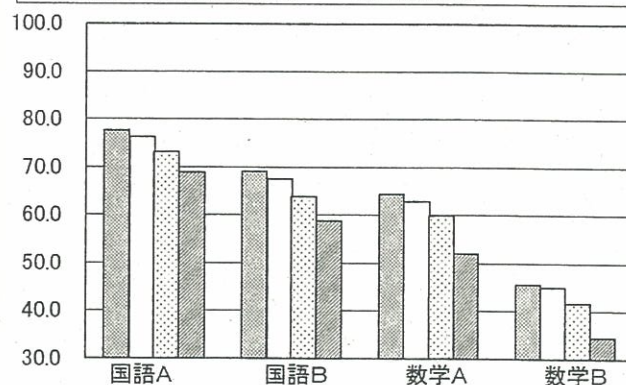
【小学校】ノートに、学習の目標とまとめを書いていたと思う

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
 □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】ノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
 □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

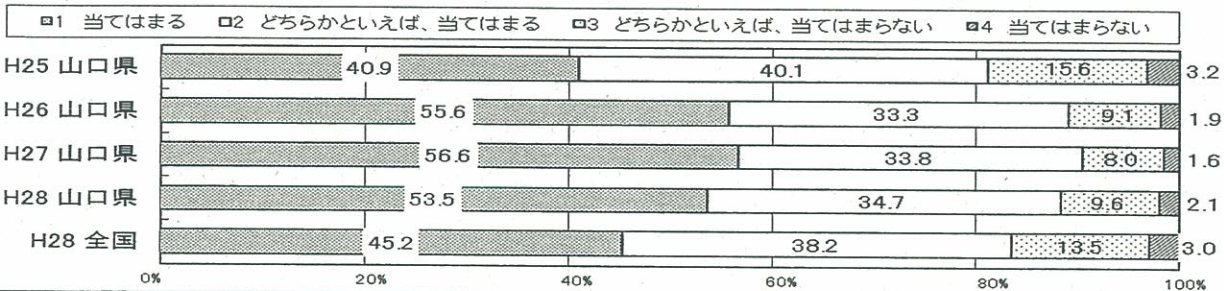


④学級やグループで話し合う活動

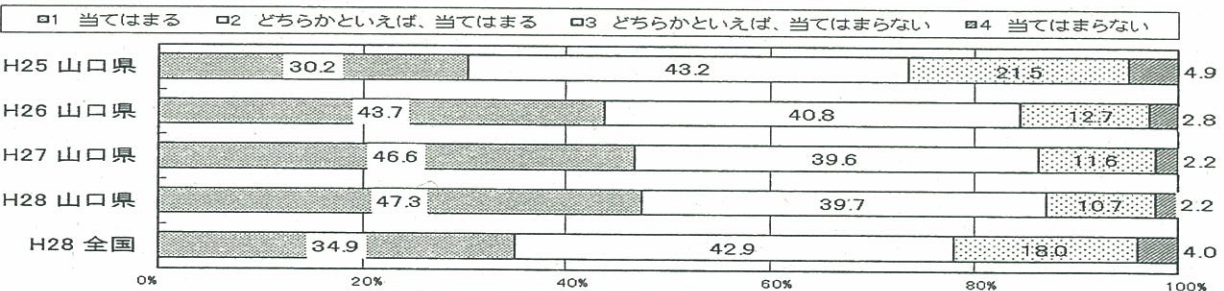
- 授業では、学級の友達との間で話し合う活動を行ったと思う児童生徒の割合と、そのように考えている学校の割合は、全国に比べて高い。
- 児童生徒と学校との回答状況を比較すると、指導を行ったと答えている学校の割合は増えているが、そのように受け取っていない児童生徒の割合は昨年度より増加している。また、児童生徒と学校との意識の差は、昨年度より開いている。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き、児童生徒に話し合いの目的や意図を明確にし、効果的な話し合い活動の場の設定に取り組む必要がある。

[児童生徒質問紙]

【小学校】 (49)授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う

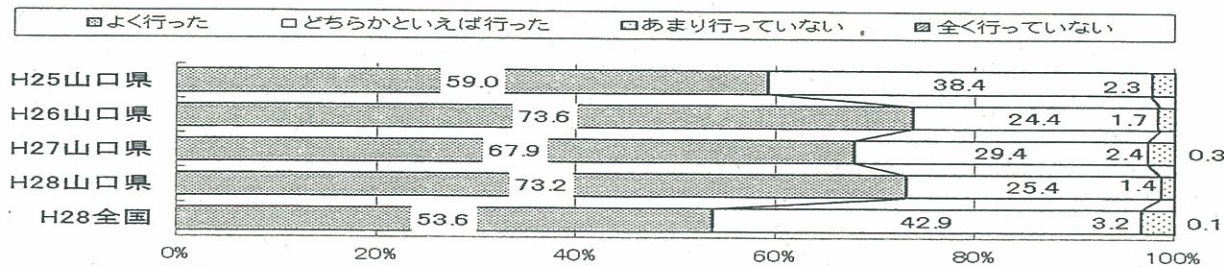


【中学校】 (49)授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う

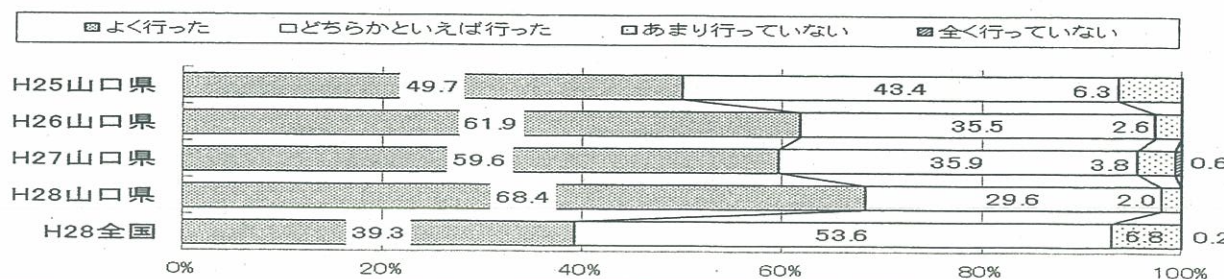


[学校質問紙]

【小学校】 42 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



【中学校】 42 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

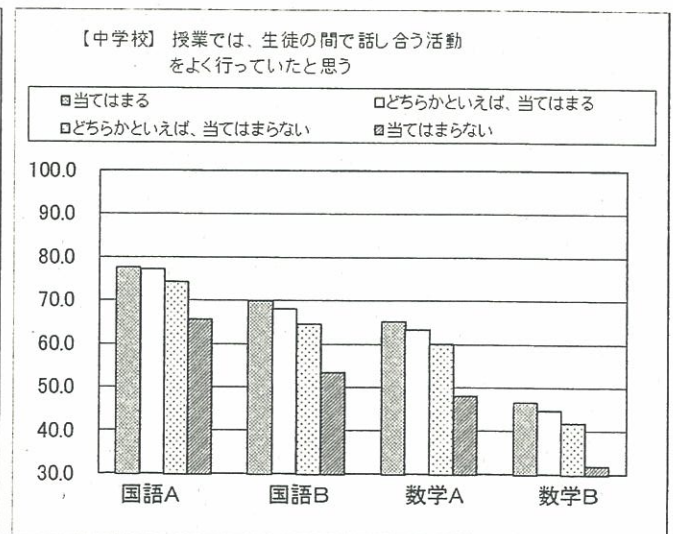
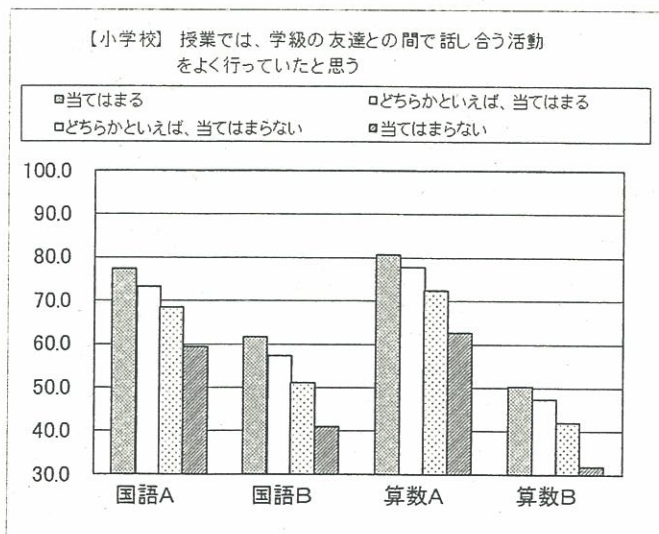
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	97.4%	81.0%	16.4%
26年度	98.0%	88.9%	9.1%
27年度	97.3%	90.4%	6.9%
28年度	98.6%	88.2%	10.4%

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	93.1%	73.4%	19.7%
26年度	97.4%	84.5%	12.9%
27年度	95.5%	86.2%	9.3%
28年度	98.0%	87.0%	11.0%

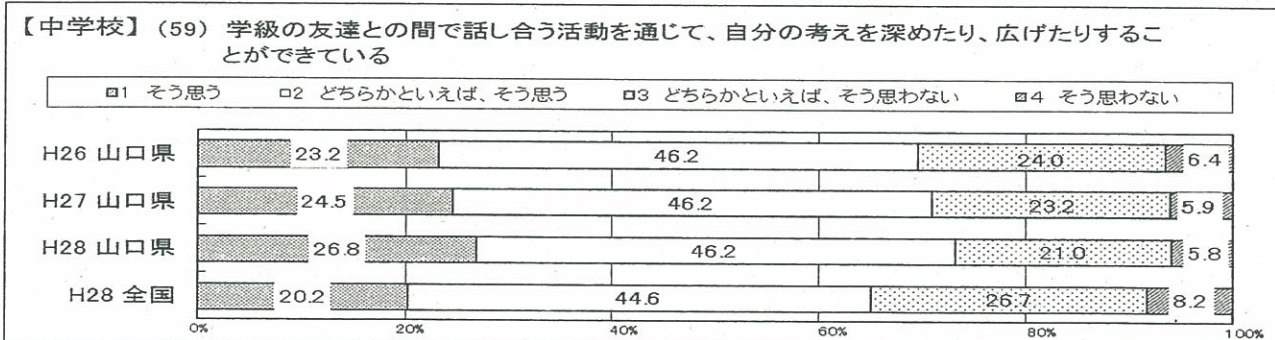
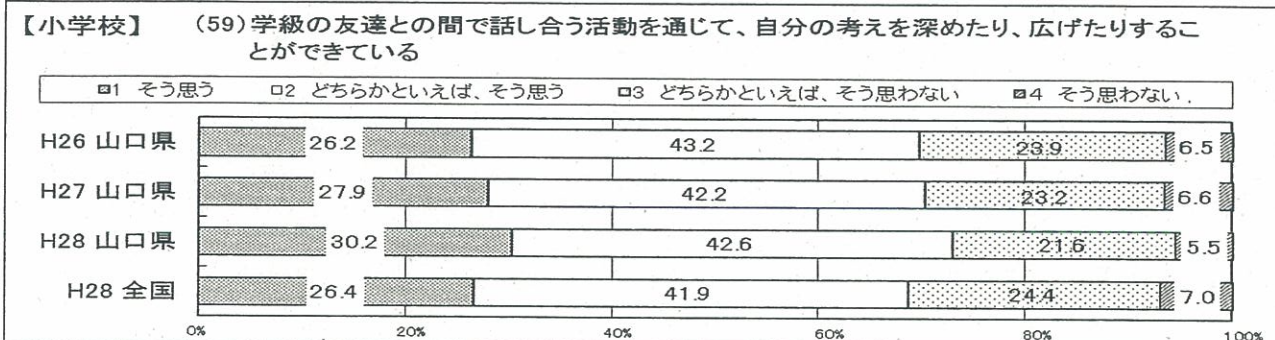
[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



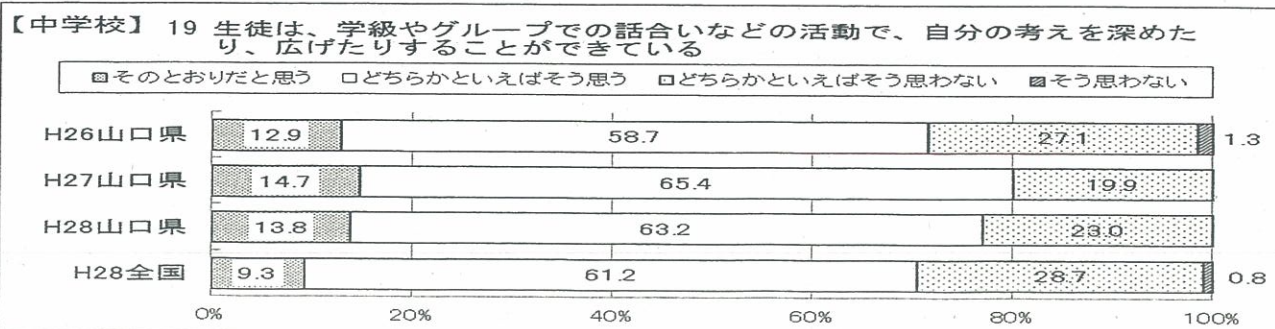
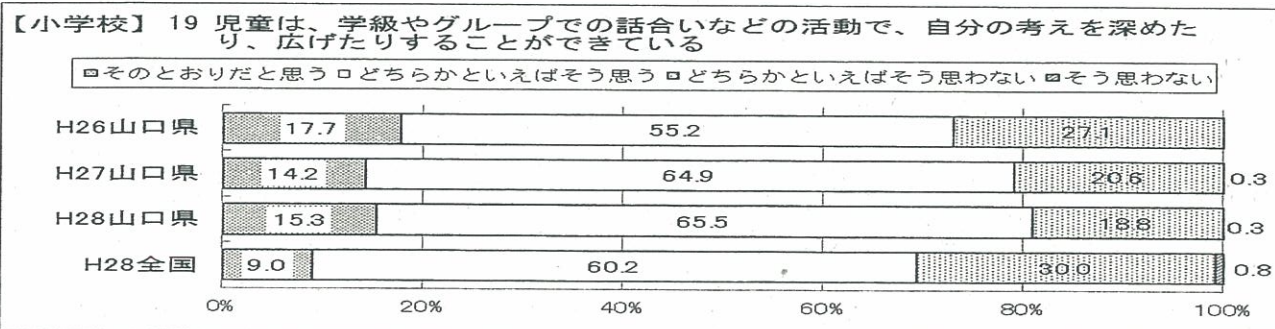
⑤話合いで自分の考えを深めたり広げたりする

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う児童生徒の割合は、年々増加しており、全国に比べて高い。また、児童生徒ができていると考えている学校の割合も全国に比べて高い。
- 中学校においては、生徒ができていると考えている学校の割合が昨年度より減少している。また、児童生徒と学校との回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差は小さくなりつつあるが、小学校は中学校に比べて差が大きい。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き、話し合う内容を精査したり、話合いにより自分の考えがどのように変わったか自己評価せたりする等により、「対話的な学び」の実現を図る必要がある。

[児童生徒質問紙]



[学校質問紙]



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

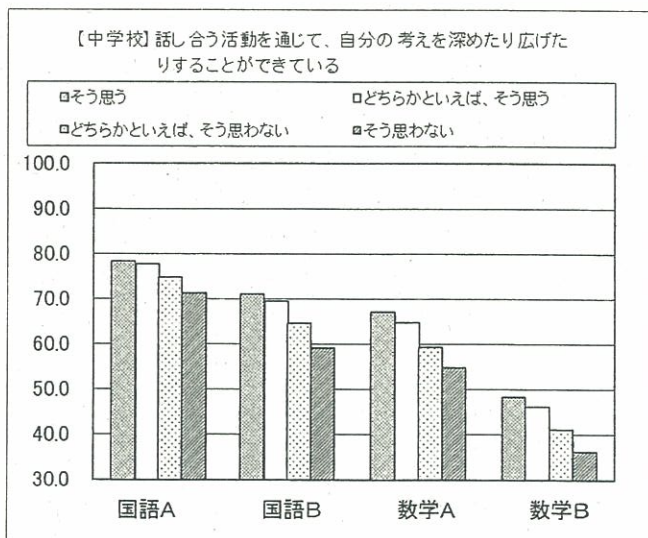
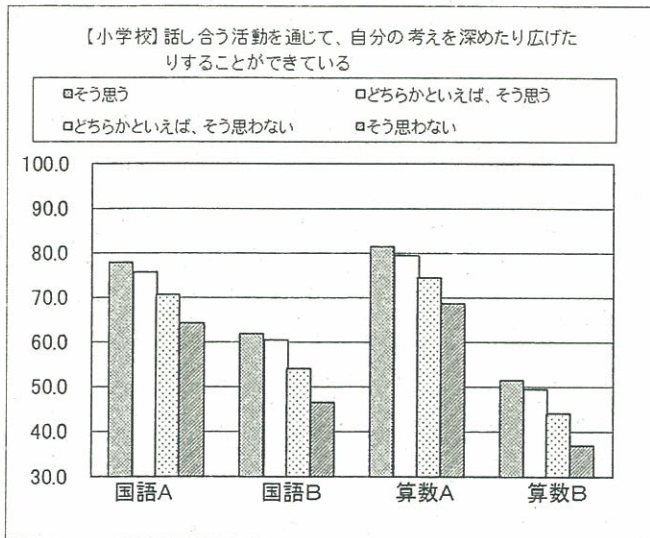
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
26年度	72.9%	69.4%	3.5%
27年度	79.1%	70.1%	9.0%
28年度	80.8%	72.8%	8.0%

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
26年度	71.6%	69.4%	2.2%
27年度	80.1%	70.7%	9.4%
28年度	77.0%	73.0%	4.0%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



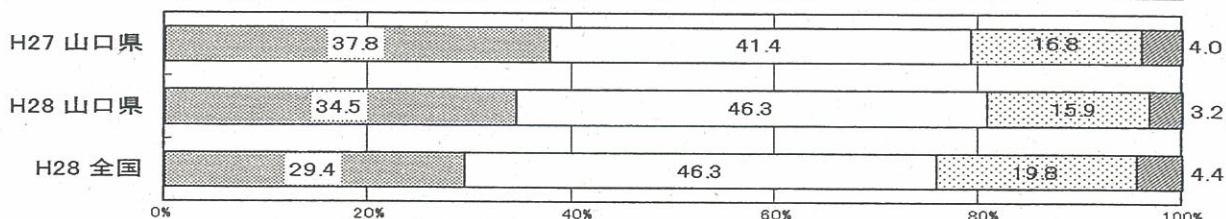
⑥課題解決的な学習活動

- 学級やグループの中で自分たちで課題を立てて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う児童生徒の割合と、そのような活動を行ったと考えている学校の割合は、全国に比べて高い。
- 児童生徒、学校ともに肯定的な回答の割合は高くなっているものの、その意識の差は開いている。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、例えば、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現という一連の探究的な学習活動を設定する等、効果的な実践に取り組んでいく必要がある。

[児童生徒質問紙]

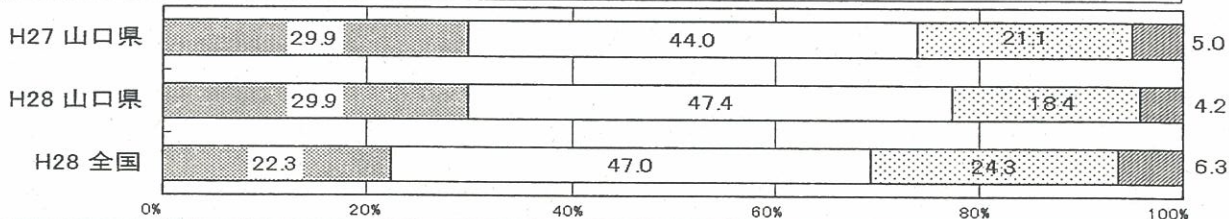
【小学校】 (50) 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

☐1 当てはまる ☐2 どちらかといえば、当てはまる ☐3 どちらかといえば、当てはまらない ☐4 当てはまらない



【中学校】 (50) 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

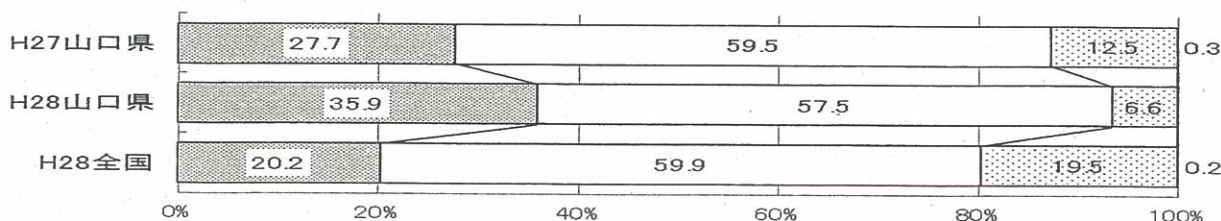
☐1 当てはまる ☐2 どちらかといえば、当てはまる ☐3 どちらかといえば、当てはまらない ☐4 当てはまらない



[学校質問紙]

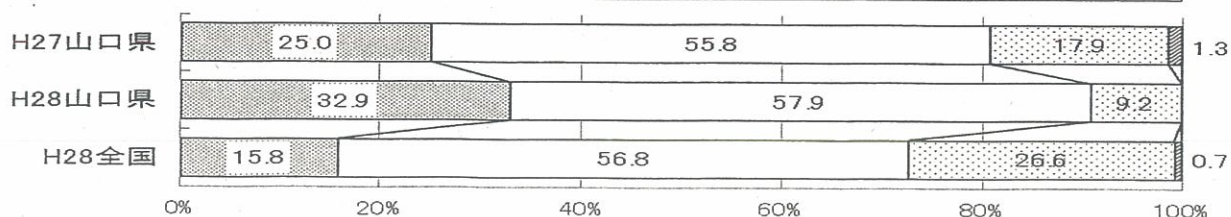
【小学校】 44 授業において児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

☐よく行った ☐どちらかといえば行った ☐あまり行っていない ☐全く行っていない



【中学校】 44 授業において生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

☐よく行った ☐どちらかといえば行った ☐あまり行っていない ☐全く行っていない



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

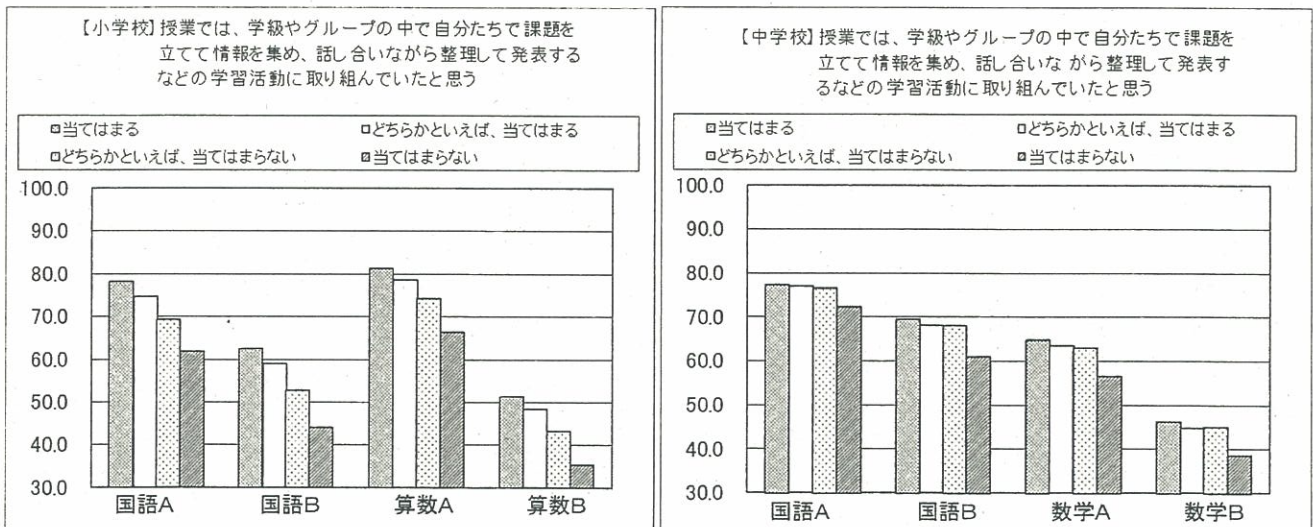
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
27年度	87.2%	79.2%	8.0%
28年度	93.4%	80.8%	12.6%

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
27年度	80.8%	73.9%	6.9%
28年度	90.8%	77.3%	13.5%

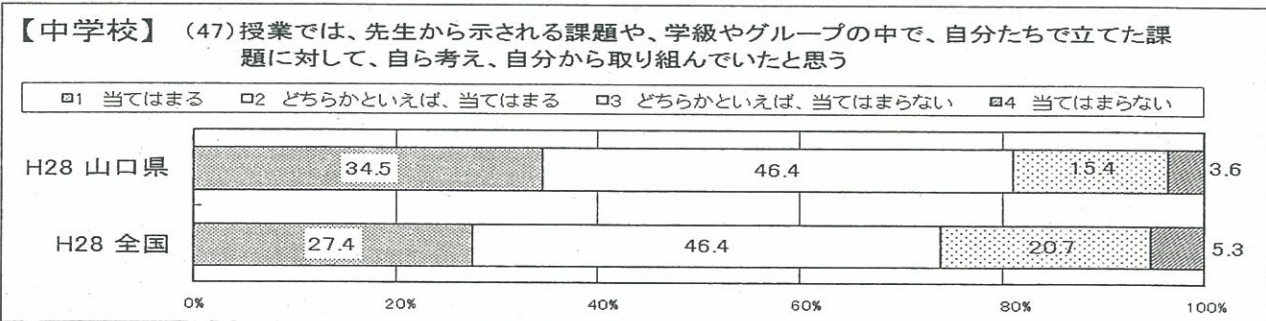
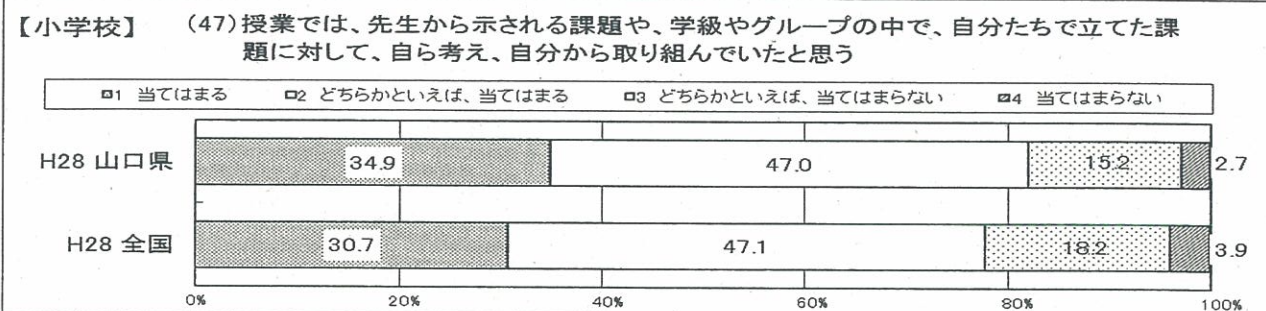
[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



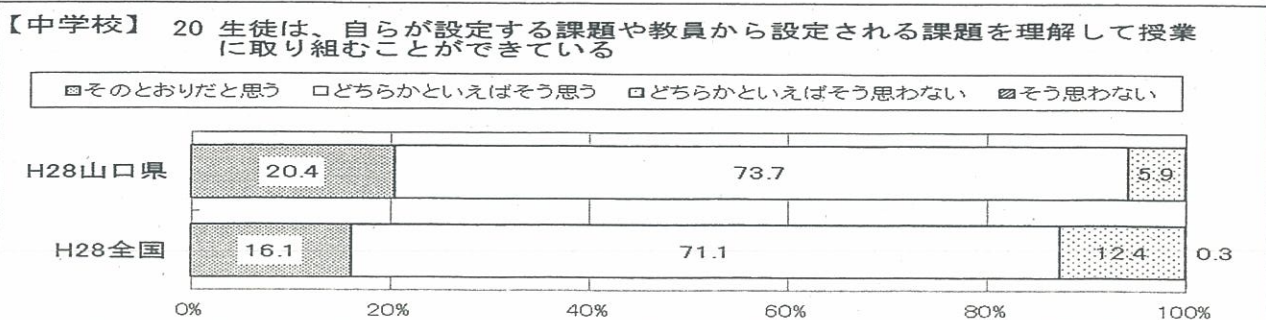
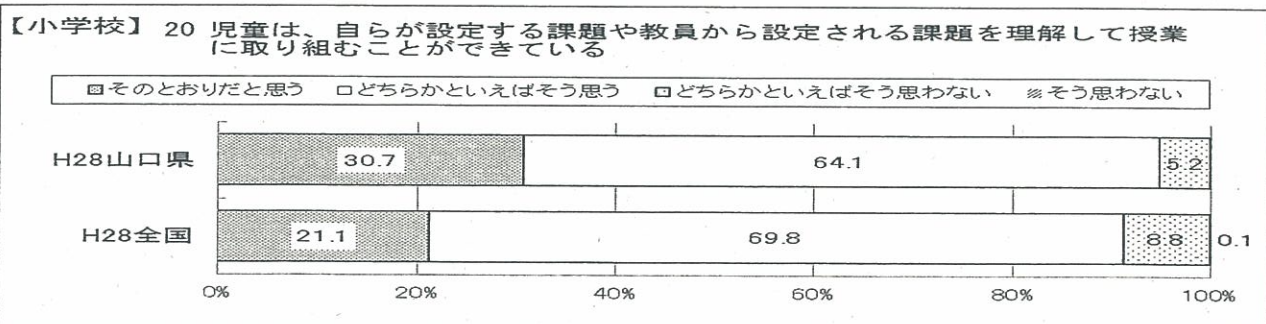
⑦課題に向き合う姿勢

- 先生から示されたり、自分たちで立てたりした課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合と、児童生徒が課題を理解して授業に取り組んだと考えている学校の割合は、全国に比べて高い。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、「そのとおりだと思う」学校の割合より、「当てはまる」と思う児童生徒の割合の方が高いものの、肯定的な回答の合計の割合は、学校の方が高く、課題の理解や取組に対する捉え方の違いがうかがえる。
- ☞ 本設問は本年度新設であり、「主体的な学び」の視点に関わる。肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、今後、課題の設定の仕方や取組の充実に向けて、効果的な実践に取り組んでいく必要がある。

[児童生徒質問紙]



[学校質問紙]



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

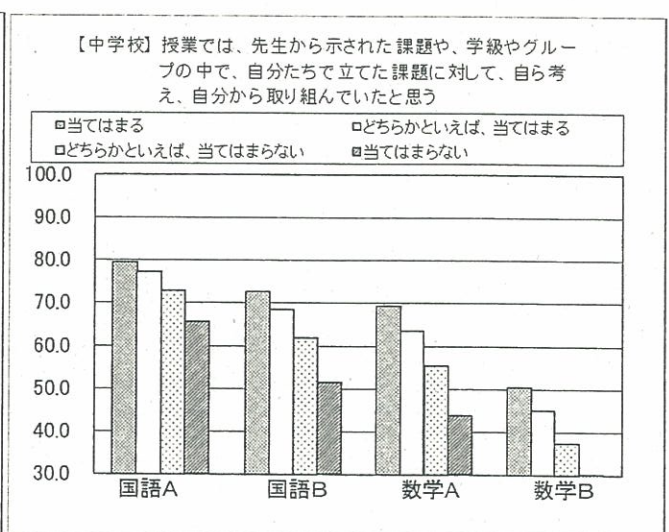
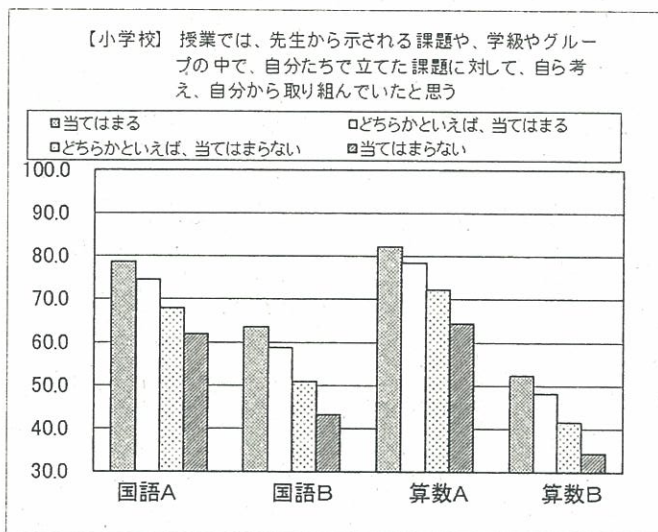
【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
28年度	94.8%	81.9%	12.9%

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
28年度	94.1%	80.9%	13.2%

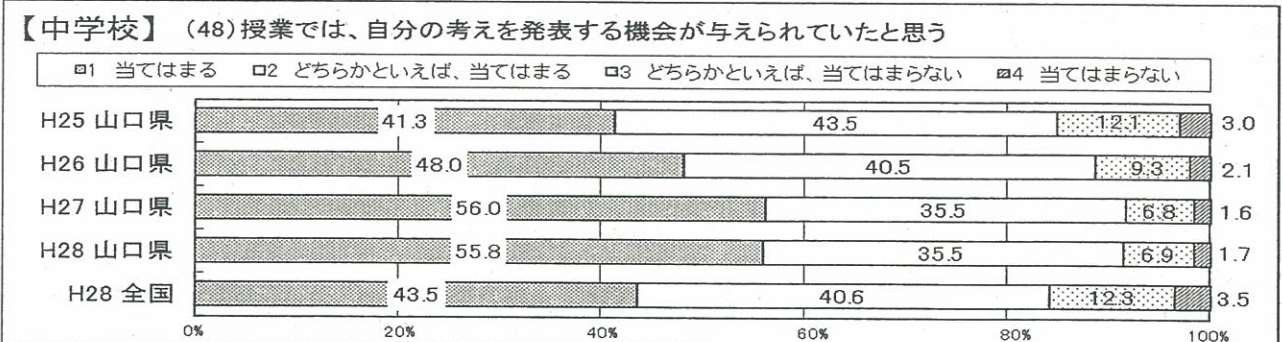
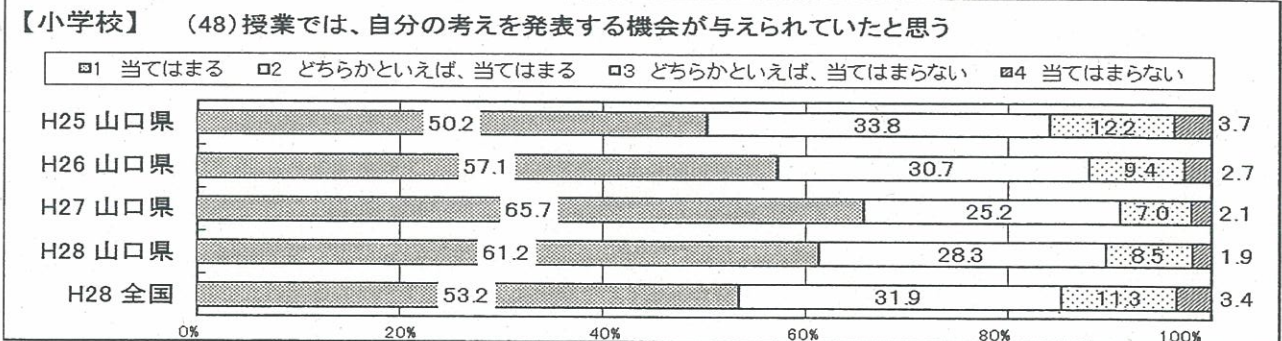
[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]



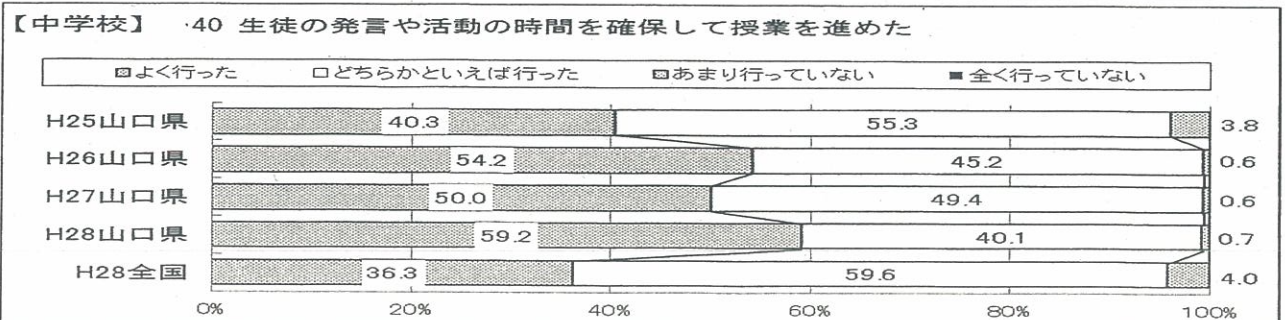
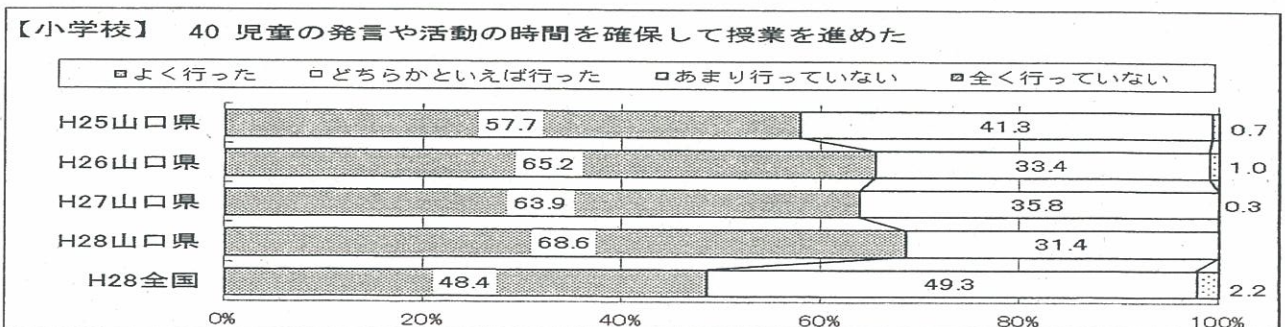
⑧子どもの発言や活動の時間の確保

- 自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと回答した児童生徒の割合と、そのような時間を確保して授業を進めた学校の割合は、全国に比べて高い。特に学校質問紙においては、小学校は全ての学校が肯定的な回答をしている。
- 児童生徒と学校の回答状況を比較すると、ほとんどの学校が指導を行ったと回答しているものの児童生徒の肯定的な回答の割合は昨年度よりもわずかだが減少しており、児童生徒と学校との意識の差も開いている。
- ☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、引き続き、児童生徒が発言や活動ができたと具体的に実感できる場と時間を確保することが必要である。

[児童生徒質問紙]



[学校質問紙]



[学校と児童生徒の回答状況の比較]

【小学校】

	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25年度	99.0%	84.0%	15.0%
26年度	98.6%	87.8%	10.8%
27年度	99.7%	90.9%	8.8%
28年度	100.0%	89.5%	10.5%

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25年度	95.6%	84.8%	10.8%
26年度	99.4%	88.5%	10.9%
27年度	99.4%	91.5%	7.9%
28年度	99.3%	91.3%	8.0%

[児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係]

